

平成30年度 芦屋市創生総合戦略 評価票 (平成29年度決算評価) 【案】

基本目標	1 安全・安心で良好な住宅地としての魅力を高め、継承する					
	恵まれた自然環境や交通の利便性などの立地条件に加え、本市の特徴であるまちなみを維持・保全し、更に清潔で美しく、安全なまちづくりを進めていくことで、今ある魅力を堅持しながら、住宅都市としての機能や付加価値を高め、本市の良さを引き続き継承します。					
数値目標	項目	H26	H27	H28	H29	目標(H31)
	人口の社会増(人)	185	△309	△95	299	3,200人以上 (H27~H31)
	市民の定住意向(%)	84.7	-	-	83.9	90
外部評価意見	(1) 良質な住まい・住環境の形成					
	<p>1 景観施策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋外広告物は、単に撤去すればいいものではなく、芦屋のブランド力向上に向けて、市民にその目的が浸透していくことが必要。 ・屋外広告物の施策の推進には関係者と情報の共有を図り、ガイドラインの充実や具体事例の紹介などにより不安を払しょくする工夫をしていただきたい。 ・公共サインの設置や屋外広告物条例における補助限度額の引き上げの効果を検証すること。 <p>2 住宅都市の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮塚公園の改修を契機に地域でのネットワークづくりや、組織横断的にプロジェクトチームで取り組んだ一連の取組は評価できるため、今後も進められたい。 ・宮塚公園の手法を参考に、他の公園でも利用目的を検討したうえでの改修に努められたい。 <p>3 シティプロモーションの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芦屋の特色である給食についてアピールしていることは評価できる。 ・情報発信の元となる活動を促進していくことがシティプロモーションになるので、その仕組みづくりを進められたい。 ・市民にもシティプロモーションの内容を浸透させることが必要であり、市民の参加者を増やす好循環を作り出すよう取り組むこと。 ・シティプロモーションの効果検証を行うこと。 					
	(2) 地域における医療・福祉の充実					
	<p>4 全世代交流の居場所づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベント開催を目的とするのではなく、継続して取り組むことが必要であり、仕組みを検討すること。 ・「こえる場！」の取組は交流の場でもあり、企業にとってもメリットがある。 ・企画段階から関係者と協働する仕組みづくりが必要である。 ・従来の行政手法とは異なり、若手職員などが地域に出て対話することが必要である。 ・参加者の固定によるマンネリ化を防ぐため、オープンにする必要がある。 ・キッズスクエアでのプログラム充実など、他の事業に繋がったことを評価する。 ・全世代交流から子育て支援ができるような取組を検討されたい。 					
	(3) 安全・安心なまちづくりの推進					
	<p>5 防災・防犯の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災に関しては、行政が主体的な役割を果たし、災害に関する市民への意識づけを行うこと。 ・防災に関するハードの整備には限界があり、啓発を進めていく必要がある。 ・スピーカーについては、効果を見極めて配置すること。また、他の伝達手段を複合的に組み合わせ、効果的な手法を検討すること。 					

基本目標	2 若い世代の子育ての希望をかなえる					
	妊娠・出産期から切れ目のない子育て支援のため、子どもや子育て家庭の置かれた状況に応じて支援の充実を図るとともに、学校教育の充実を目指します。					

数値目標	項目	H26	H27	H28	H29	目標(H31)
	若い世代(20~40代)の幸福感(点)	7.1	-	-	7.2	8.0
	出生数(人)	783	725	669	694	783
	待機児童数(人)	131	128	109	139	0

外部評価意見	<u>(1) 妊娠・出産・子育ての支援</u>					
	<p>6 子育ての支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児から小学生まで、切れ目のない支援の仕組みづくりが必要。 ・キッズスクエアについて、全児童を対象とすることは評価できるが、働きながら子育てできる環境整備に努められたい。 ・放課後児童健全育成事業については、少子高齢化を見据えながらも前向きに進めてもらいたい。 ・小学校区ごとに課題等を把握し、情報共有を行うなど仕組みづくりが必要である。 <p>7 女性活躍の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芦屋市の特色として起業意欲が高く、良い場所が提供されれば希望者が出てくる可能性は高い。 ・女性活躍の推進として、起業・就労支援だけでなく、子育ての状況など全体を考慮して事業を進めること。 					
外部評価意見	<u>(2) 教育環境の充実</u>					
	<p>8 教育環境の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食育事業について、プロモーションなど各事業との連携により実施され、芦屋の給食の魅力が向上しており、評価する。 ・体力向上の取組としてイベントを充実させたことは評価する。また、日常的な取組が重要であり、幼児期からの支援が必要である。 ・読書のまちを推進する事業に継続して取り組んでいることはとても評価できる。 ・図書館の大規模改修をきっかけとした魅力ある図書館を検討されたい。 					

外部評価意見	<u>総合戦略の推進全般について</u>					
	<ul style="list-style-type: none"> ・市民・関係団体との効果的な情報共有を検討されたい。 ・<u>プロジェクト・チームの成功事例を他の事業に広めていくこと。</u> 					

重要業績評価指標（KPI）	1 安全・安心で良好な住宅地としての魅力を高め、継承する	H26	H27	H28	H29	めざす値 (H31)	
	(1) 良質な住まい・住環境の形成						
	地域におけるまちなみなどの景観の美しさに関して「かなり良い」又は「やや良い」と回答した市民の割合（％）	84.7	-	-	84.5	90.0	
	芦屋市屋外広告物条例の規制内容に適合する屋外広告物の割合（％）	62.4 (見込数)	-	-	-	82.5	
	無電柱化率（％）	12.4	12.4	12.4	12.4	14.1	
	オープンガーデン参加者数（人／年）	81	107	121	127	125	
	市街地（奥池地区除く）緑被率（％）	22.0 (H17)	25.7	-	-	27.6	
	(2) 地域における医療・福祉の充実						
	紹介率（他の医療機関から市立芦屋病院に紹介された患者の割合）（％）	37.0	40.4	41.0	41.6	47.8	
	逆紹介率（市立芦屋病院から他の医療機関に紹介した患者の割合）（％）	64.9	63.9	55.1	76.9	69.2	
	認定救急救命士の救急業務活動従事者数（人）	17	18	22	21	28	
	シルバー人材センターの会員数（件／年）	1,004	1,054	1,092	1,109	1,254	
	高齢者生活支援センターの新規相談者数（人／年）	1,201	1,087	1,196	975	1,264	
	地域見守りネット事業の加入事業者数（件／年）	63	132	139	126	94	
	(3) 安全・安心なまちづくりの推進						
	民間事業者との災害時における応援協定締結数（件）	20	22	26	34	37	
	住宅の耐震化率（％）	93.3 (H25)	-	-	-	95.6	
	個別避難支援計画策定数（件）	1,380	2,186	2,289	2,136	2,980	
	消防団員数（人）	98	100	99	98	108	
	街頭犯罪・侵入犯罪の認知件数（件／年）	445	406	392	334	266	
市が管理する街灯のLED化率（％）	7.7	17.4	30.9	38.1	37.4		

2 若い世代の子育ての希望をかなえる		H26	H27	H28	H29	めざす値 (H31)	
重要業績評価指標〔KPI〕	(1) 妊娠・出産・子育ての支援						
	待機児童数（人）	131	128	109	139	0	
	病児・病後児保育実施箇所数（か所）	1	1	1	1	2	
	放課後児童健全育成事業の待機児童数（人）	0	0	22	30	0	
	保健センターでの母子健康相談の人数（人／年）	2,598	2,141	2,631	3,024	2,720	
	子育てセンターにおける「つどいのひろば」などに参加する親子の数（人／年）	53,313	52,565	52,816	51,849	55,813	
	公立の全幼稚園での未就園児とその保護者に対する施設開放実施回数（回／年）	234	307	873	900	304	
	(2) 教育環境の充実						
	児童生徒一人あたりの学校図書館における図書貸出し冊数（冊／年）	小学校	59.7	63.5	64.8	65.9	64.2
		中学校	14.6	15.3	18.2	20.9	16.7
	小学校の英語学習で、「これからも英語を使ってみたい」と答えた児童の割合（％）		92.1	92.2	94.0	94.0	92.1
	中学校の数学で、「授業がよくわかる」と答えた生徒の割合（％）		80.0	72.5	73.6	73.2	80.0
	通学路合同点検において確認された危険箇所（市が実施主体となる箇所のみ）の改善割合（％／年）		100.0	-	-	-	100.0
	あしやキッズスクエア、校庭開放、子ども教室の開催日数（日／年）		1,060	1,716	1,560	1,766	1,920
	将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合（％）	小学校	86.0	86.4	85.0	86.8	90.0
		中学校	71.7	71.8	70.6	72.0	80.0

2 外部評価結果について

(1) 総評

ここでの評価は、事業終了後に行う結果の判定ではなく、事業の改善に資する意見を述べることを目的としている。全体を通じて強調したいことは、次の点である。

● 好循環をもたらす

人口構成の変化や市民ニーズの変化に対処するという課題に取り組むためには、市民の参画と協働によって事業を進める必要がある。その手掛りを、プロジェクト・チーム方式で取り組んだ「宮塚公園の改修」及び「全世代の居場所づくり」に見出すことができる。それをモデル化すると、①明確な目標を設定し、②組織横断的なプロジェクト・チームを編成するとともに、③既存の関係を越えた、多様な主体とのネットワークを形成し、協議を重ねることを通じて、④目標を達成するとともに、⑤各主体の力量を高めるという効果が得られ、さらに、⑥そのことが次の取組の糸口になるとともに、⑦新たな主体の参加を得て、⑧再設定された目標のもとで活動が継続される、という好循環の形成である。具体的に言うと、「宮塚公園の改修」では、工事完了後に周辺地区をブランディングエリアとして整備する計画であり、その一環として旧宮塚町住宅をリノベーションして「女性が輝くまち 芦屋」プロジェクトの ASHIYA RESUME 事業の活動拠点等として活用すること、「全世代の居場所づくり」では、プロジェクト・チームに参加した企業が新たに「キッズスクエア事業」で連携することになったことが参考になる。人が育ち、成果が上がる仕組みをつくるには、このような好循環が欠かせないということを念頭に置く必要がある。

● 地域の魅力をつくる

都市ブランド価値の形成は、様々な取組によって特色ある地域づくりを進めるとともに、その魅力を戦略的に一長期的視野のもと総合的な観点から資源を活用する一内外に情報発信するシティプロモーションによって達成される。すなわち、シティプロモーションを推進する上で鍵となるのは、実際に成果を上げることであり、そのような取組に係る活動が魅力的なコンテンツ（情報の内容）になる。そして、巧みな情報発信には、活動を促進する効果を期待できる。このような相乗効果を生み出すことを心掛けていただきたい。

● 子育て支援と女性活躍推進を両輪とする

核家族化した社会で子育て世代の負担を軽減し、女性が活躍できる社会にするには、地域全体で出生期から乳幼児期、就学期まで切れ目なく支援する仕組みをつくり、子育てと仕事の両立を図る一方、再就業や起業を支援する必要がある。この点について、事業はまだ緒に就いたばかりであり、十分な成果を上げるに至ってはいない。最重要課題の一つであるとの認識に立ち、引き続き努力を傾注していただきたい。